

「先生も思わず納得に反省文の書き方教室」
掲載例文使用条件

① 「先生も思わず納得に反省文の書き方教室」(以下「本サイト」)の例文は、学校提出に限りその使用を認めます。

② 本サイトの例文を使用し、何らかの問題が発生しても、本サイトおよび管理人は一切の責任を負わないものとします。

③ 本サイトの例文を使用する場合、すべてにおいて使用者の自己責任で対応するものとします。

④ 本サイトおよび例文に関しては、苦情とうは一切受け付けません。

⑤ 何かしらの問題が発生する可能性がある場合、判断した場合、使用は控えてください。

⑥ 本サイトの例文を他サイトへ転載することは、理由のいかんを問わず厳禁とします。

⑦ 他サイトからの直リンクは一切禁止します。
以上

自分は今までに、作文や、読書感想文、そ
 して標語コンクールなどで入選したことはあ
 りませんでした。「一度でいいから賞状をも
 らいたい」「賞状をもらえば、父も母もよろ
 こぶだろう」、そんな考えがよぎりました。
 その気持ちが進んだんと強くなりました。
 そして誘惑に負け、ほかの人が書いた●●に
 関する標語を、そのまま書き写すという愚行
 に至りました。
 ●●に関する標語というものは、●●につ
 いて真剣に学ぶ機会を与えてくれる勉強です。
 大人になり、●●について考えなければなら
 ないときに備えて、今から準備をする大切な
 学習の機会です。
 にもかかわらず「コンクールで入賞したい
 から」「賞状をもらえば両親がよろこぶだろ
 うから」との理由で、●●とは何かを真剣に
 考得ることを放棄し、ネットからコピーする
 という安易な方法を選んでしまいました。
 このことについては両親からも「若いころ

に考えることは大人になってからのそれとは
 比べものにならないほど、精神を大きく向上
 させるものだ。それなのに人の標語を書き写
 すとは何事だ」と、きつくしかられました。
 また、標語の課題となった●●の意義につい
 ても論されました。
 今後は、困難な課題や時間のかかる宿題も
 自力で最後までやり遂げることを誓います。
 大変だから、だけど入賞したいからと、人が
 書いた標語を写しては、自分が成長する機会
 を失うことになります。
 この度の●●に関する標語流用では多くの
 人たちに迷惑をおかけいたしました。謹ん
 でおわび申し上げます。
 今回、親身になってわたしのことを厳しく、
 かつ真剣にしかってくださいました●●先生、そ
 して、両親のためにも、このような不始末は
 今後二度と起こさないことをここに誓約いた
 します。

以上